



国見町水道事業 アセットマネジメント策定について

概要版 (説明資料)

国見町上下水道課

アセットマネジメント策定の目的

アセットマネジメントとは

更新需要を明らかにし、財政収支の見通しを**30～40年スパン**で検討することで、**財源の確保**(水道料金の改定、企業債の発行)や**更新基準の見直し**、**更新費用削減の検討**を行うこと。

策定の目的

水道施設の再構築や**施設規模の適正化**を視野に入れた、**適正な資金確保**について検討を行い、水道施設の更新計画を策定し、厚生労働省「水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)に関する手引き」の手法**4D詳細型のアセットマネジメントの策定**を目的とするものである。

アセットマネジメントの検討手法

簡略型

データ未整備等において更新需要や財政収支の見通しを算定する際の簡略的な検討手法を指す。(更新需要:タイプ1, 2、財政収支見通し:タイプA, B) (資産状況が把握できない)

標準型

更新需要及び財政収支の見通しを算定する際の標準的な検討手法を指す。(更新需要:タイプ3、財政収支見通し:タイプC) (施設台帳、図面あり、資産の取得年度や金額等整備済み)

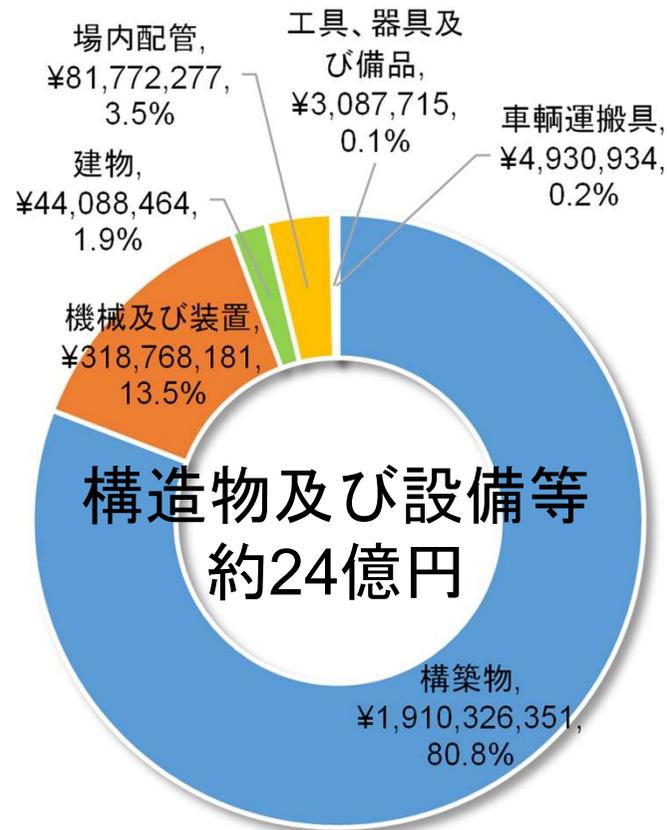
詳細型

将来の水需要動向や適正な資金確保等を勘案して更新需要や財政収支の見通しを算定する際の詳細な検討手法を指す。(更新需要:タイプ4、財政収支見通し:タイプD)

3つの手法のうち「**詳細型**」を選択

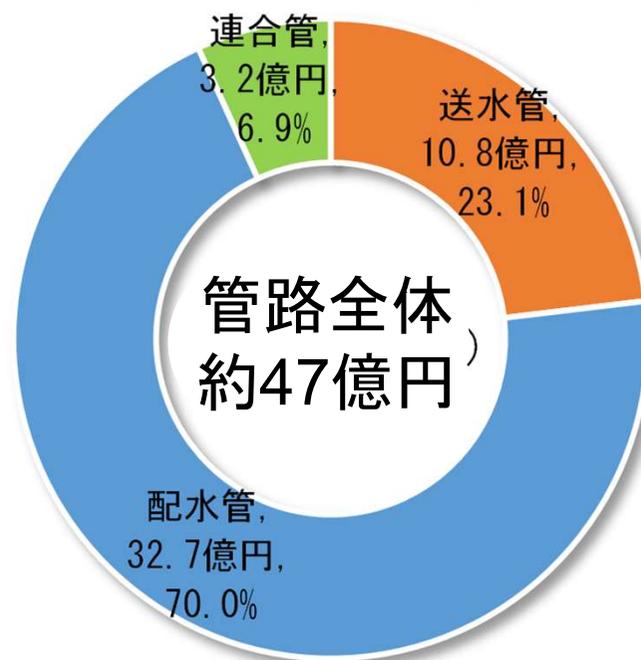
将来の**人口減少**を考慮して、**水道施設の再構築**や**適正な施設規模**を検討して**更新費用の削減**を図るとともに、**料金改定**を含む**適正な資金確保**について検討

固定資産台帳のチェック



固定資産台帳を整理した結果、
構造物及び設備等（管路や土地、量水器等を除く）の更新費用は
現在価格で**約24億円**と試算

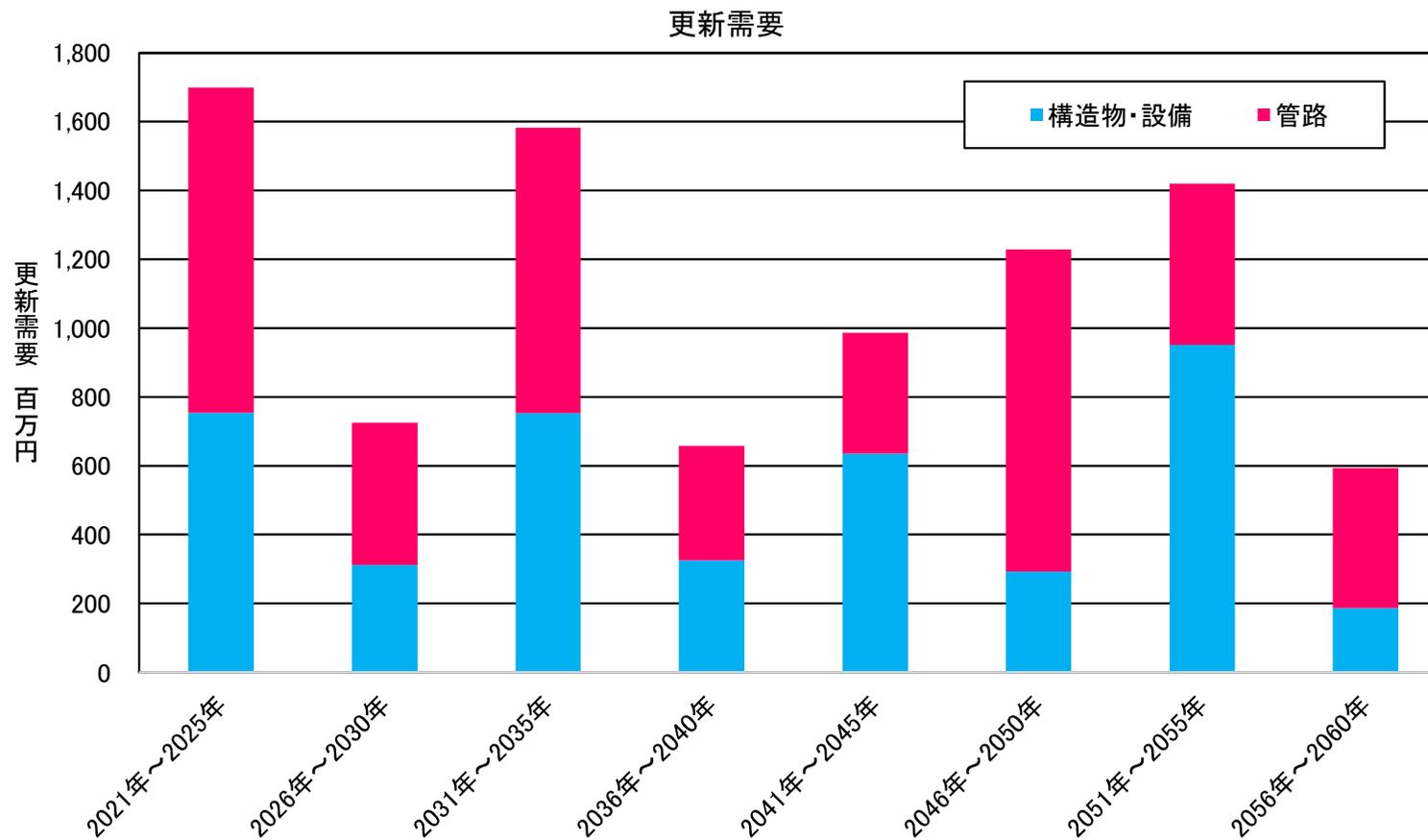
管路データの整備など



管路台帳システムより管路データを整理した結果、
管路全体 (送水管、配水管、連合管) の更新費用は現在価格で
約47億円と試算

構造物及び設備等約24億円＋管路全体約47億円
＝**約71億円**

法定耐用年数で更新した場合の更新費用



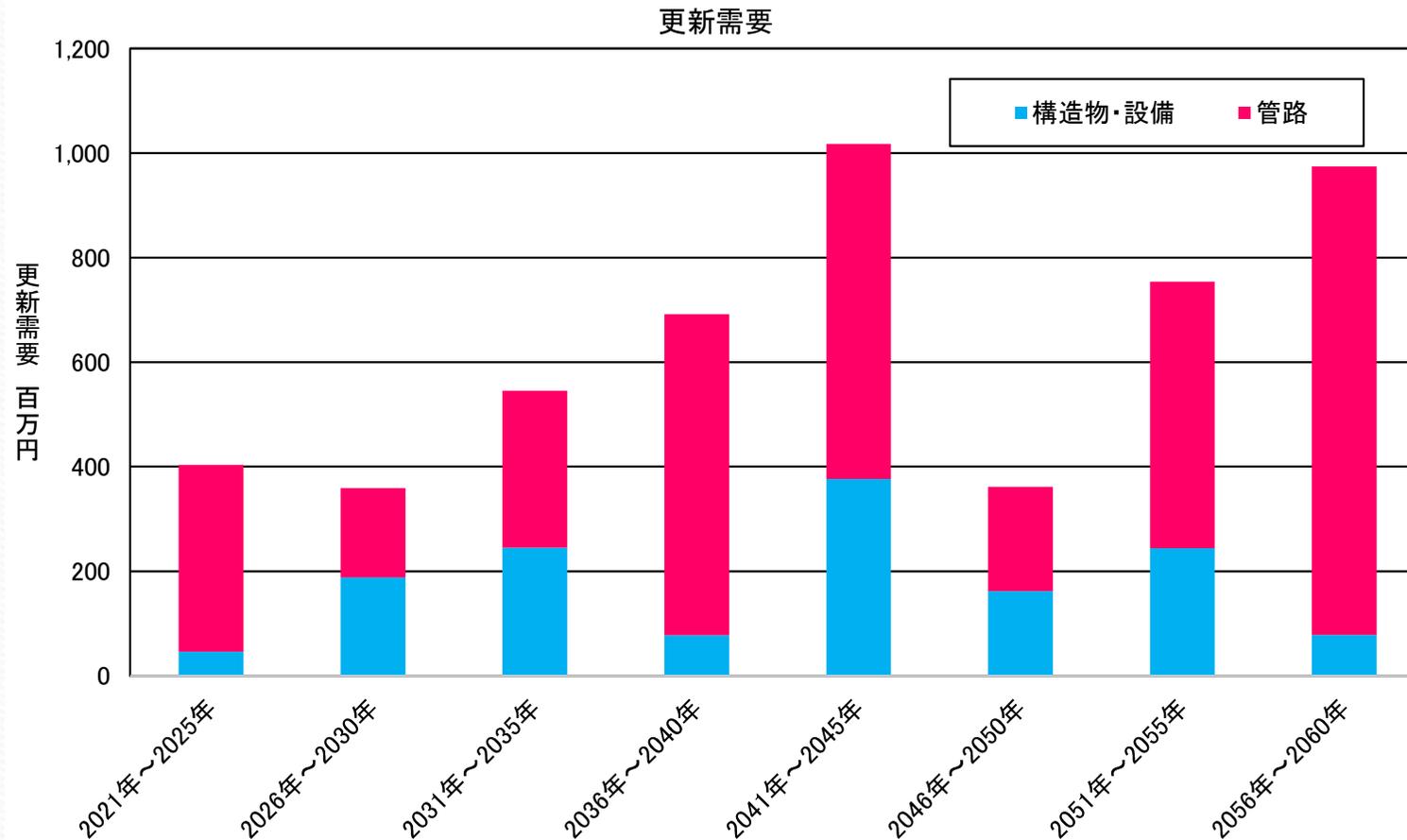
法定耐用年数で更新する場合、2060年度までの更新費用の総額は約89億円(2.23億円/年)と試算

実使用年数に基づく更新基準の設定

厚生労働省アセットマネジメント「簡易支援ツール」で示されている「参考資料 実使用年数に基づく更新基準の設定例」を参考に、**更新基準(更新サイクル)**を以下のように設定

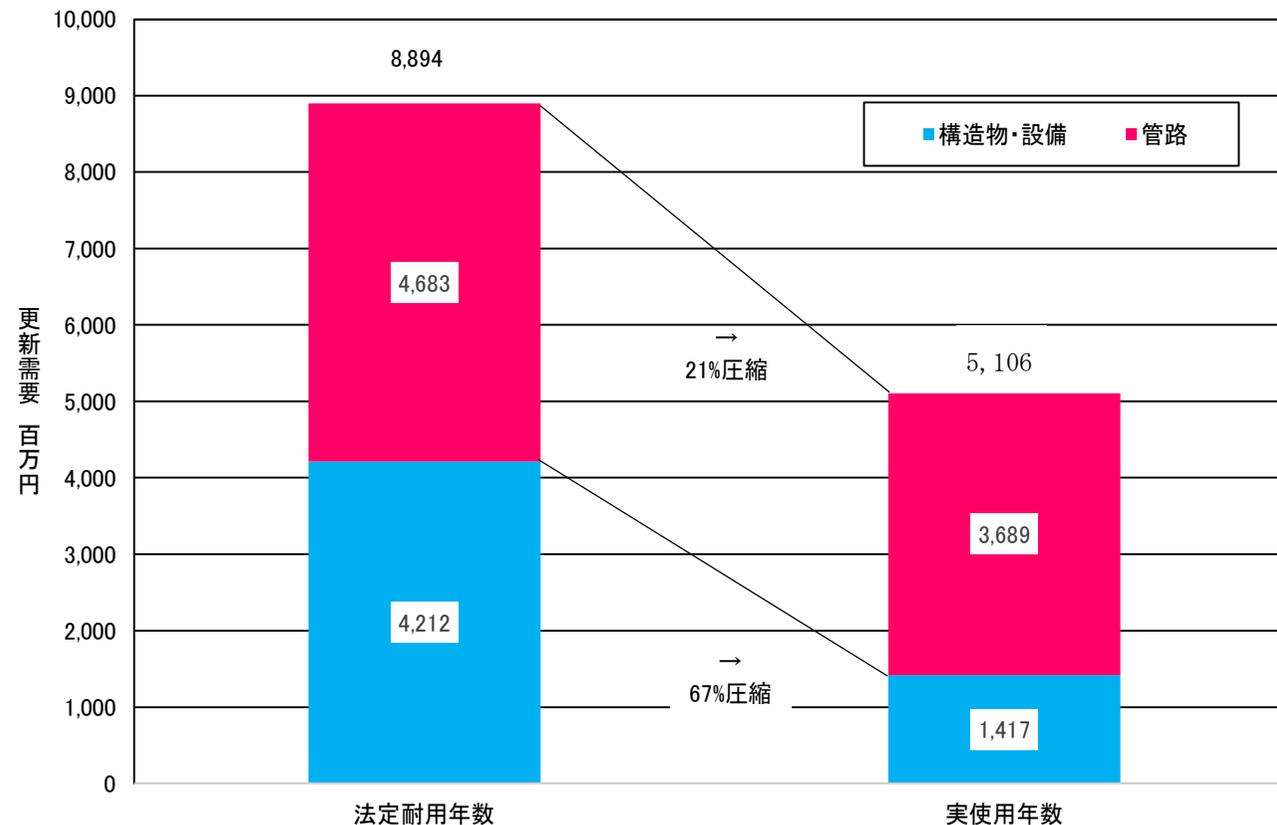
- ・建物(建築): **70年**
- ・構築物(土木): **70年**
- ・機械及び装置: 電気**25年**、機械**20年**、計装**20年**
- ・場内配管: **70年**
- ・工具、器具及び備品: 「法定耐用年数」× **2倍**
- ・車輛運搬具: 「法定耐用年数」× **2倍**
- ・管路: 管種(材質)別に設定(**40~80年**)

更新基準（実使用年数）で更新した場合の更新需要



更新基準（実使用年数）で更新する場合、2060年度までの更新費用の総額は約51億円（1.28億円／年）と試算

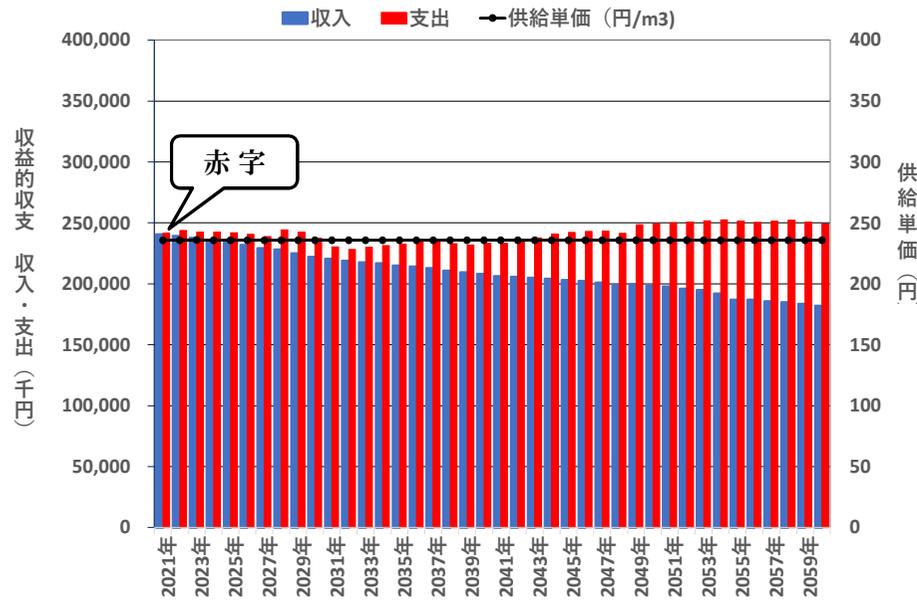
実使用年数で更新した場合の更新費用の削減



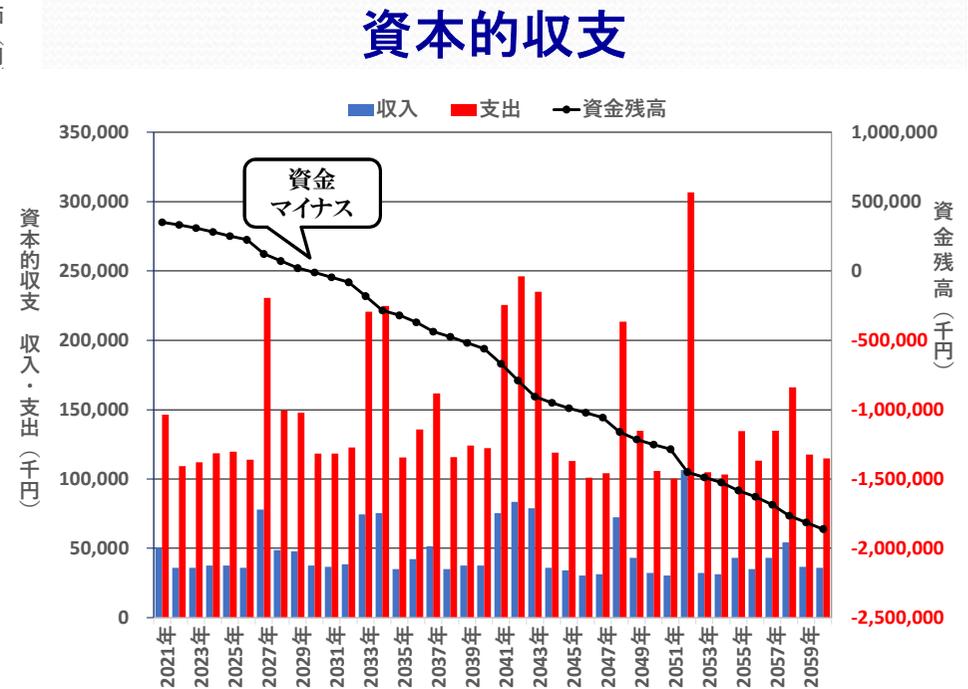
更新基準(実使用年数)での更新と法定耐用年数で更新した場合の費用比較
更新基準(実使用年数)で更新した方が……

構造物及び設備等は **67%**、管路は **21%** 合計額では**43%**圧縮される。

財政収支見通しの検討①（料金据置）

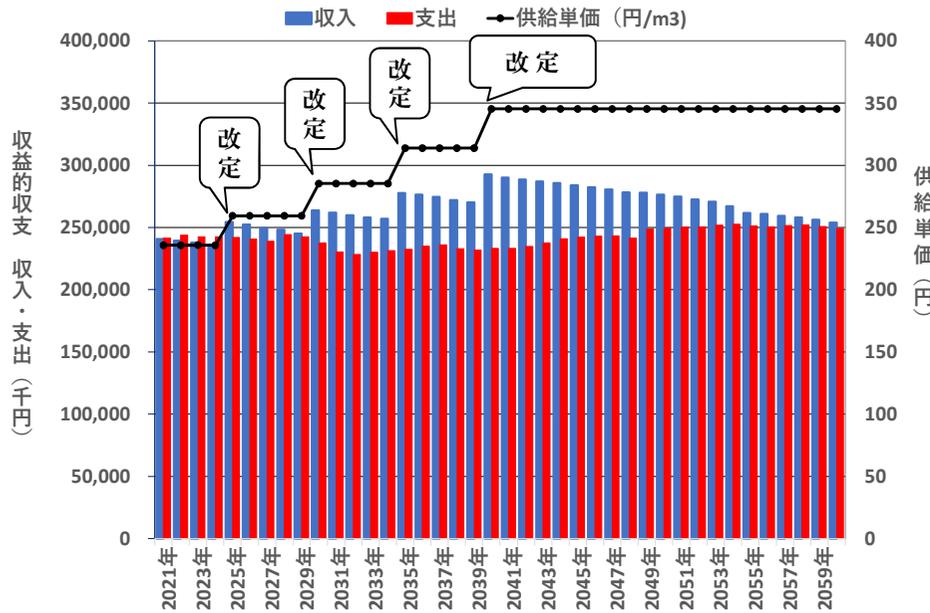


収益的収支

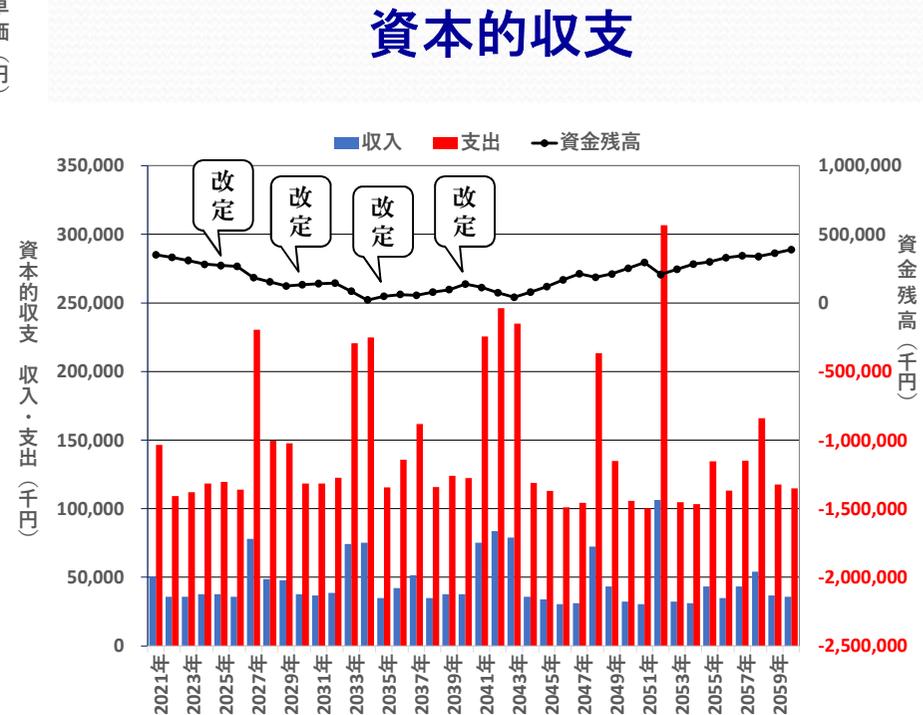


収益的収支：推計開始（2021年度）より赤字が継続
 資本的収支：資金残高は2030年度よりマイナスに転じる

財政収支見通しの検討②（料金改定）



収益的収支



資本的収支

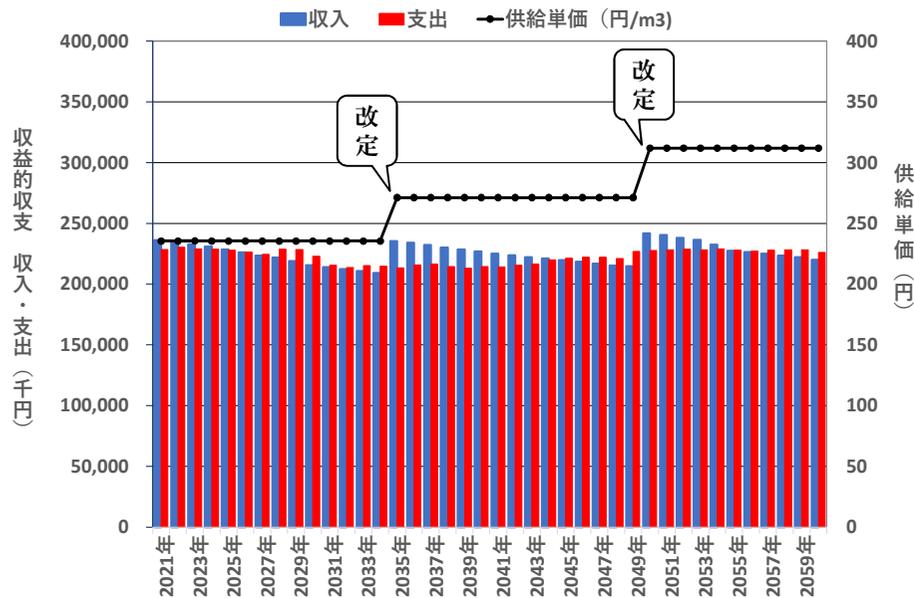
収益的収支：**4回（改定幅10%）料金改定、約1.46倍の値上げ**
 2025年以降は黒字で推移
 資本的収支：資金残高は**プラス**で推移、最終年度は約4億円

施設統廃合の検討



上記の施設統廃合を行うものとし、管路（口径100mm以上）は適正口径（ダウンサイジング）の検討を実施。

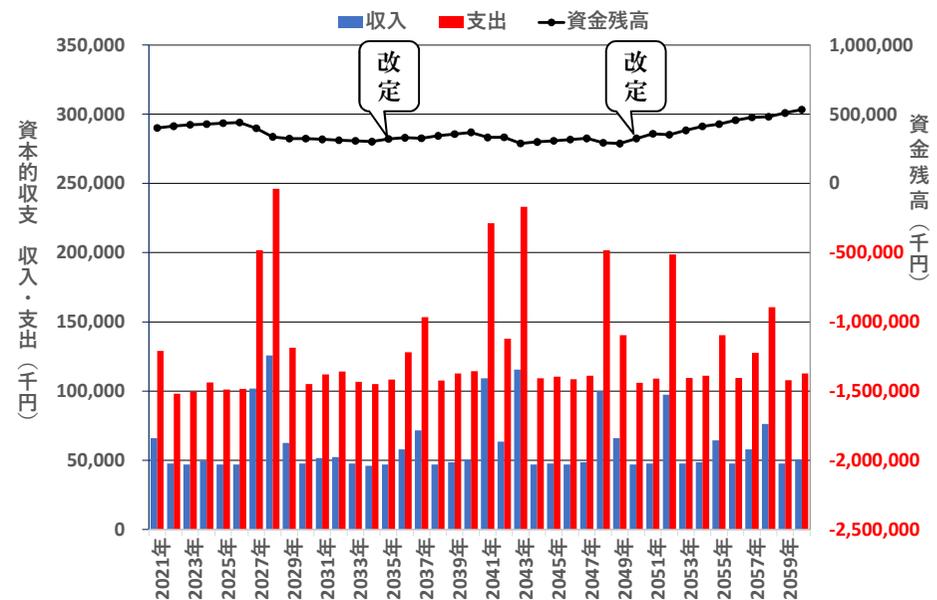
財政収支見通しの検討③（施設統廃合後）



収益的収支

※施設統廃合の効果
40年間の更新費用：
約51億円から約44億円に減少

資本的収支



収益的収支：2回（改定幅15%）料金改定、約1.32倍の値上げ
（赤字で推移する期間あり）

資本的収支：資金残高はプラスで推移、最終年度は約5億円

アセットマネジメント策定のまとめ

将来の人口減少を考慮して、水道施設の再構築や適正な施設規模を検討して更新費用の削減を図るとともに、料金改定を含む適正な資金確保について検討を行った。

施設統廃合の効果で40年間の更新費用は約51億円から約44億円まで削減となり、2回(改定幅15%)の料金改定、約1.32倍の値上げを行うことで、単年度収支が赤字で推移する期間があるが、資金残高はプラスで推移して最終年度は約5億円を確保できる見通しとなった(本計画P114以降参照)。